

令和 7 (2025)年度 病虫害発生予報 第 7 号

令和 7 (2025) 年 10 月 17 日

栃木県農業総合研究センター

環境技術指導部

害虫が施設内に侵入しないよう、防虫ネット等で対策しましょう！

予想期間 10 月下旬～11 月下旬 予報の根拠で、(+) は増加要因、(-) は減少要因を表す。

1 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い (ほ場率：平年比 101%、株率：平年比 200%) (+)。
・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量はほぼ平年並 (±) の見込み。
- (3) 対 策 ・ 定植後でも潜在感染株等が萎凋・枯死することがあるため、注意深く観察する。
・ 発病株やその周辺の感染が疑われる株は早急に抜き取ってほ場外へ持ち出し、嫌氣的発酵処理 (罹病残さを肥料袋等に詰め、空気を排出して口を閉じ、日当たりの良い野外に放置する) 後に処分する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイント No.21](#)、[いちご炭疽病薬剤感受性検定結果](#)、[植物防疫ニュース No. 10](#) を当センターホームページ (HP) に掲載中。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率：平年比 73%、株率：平年比 172%) (+)。
・ 向こう 1 か月の気温は高い (+) 見込み。
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・ 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の密度を下げておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の青色粘着板による誘殺数はやや多い (+)。
・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量はほぼ平年並 (±) 見込み。
- (3) 対 策 ・ 施設内外の除草を行う。
・ 花をよく観察して、観察した花の 1 割以上にアザミウマ類が見られる場合には、スピノエース顆粒水和剤 (I:5) 等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)、[いちご情報第4号 \(9月\)](#) を当センターHP に掲載中。

4 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い (ほ場率：平年比 150%、株率：平年比 83%) (+)。
・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量はほぼ平年並 (±) の見込み。
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・ 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 予防を主体に、パレード 20 フロアブル (F: 7) 等を葉裏によくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [すずかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

5 トマト 黄化葉巻病 (TYLCV)

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ トマト黄化葉巻病の現在の発生量はやや多い (+)。
・ 現在のコナジラミ類の発生量は平年並 (±)。
・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量はほぼ平年並 (±) の見込み。

- (3) 対 策
- ・ 施設内外の除草を徹底する。
 - ・ コナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部（出入り口、側窓、天窗）に 0.4mm 目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
 - ・ 黄色粘着板の設置によりコナジラミ類の早期発見に努める。
 - ・ 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
 - ・ トマト黄化葉巻病では、耐病性品種であっても感染すると伝染源となる。トマト黄化病（ToCV）に感染することもあるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。
 - ・ コナジラミ類は低密度の発生でもウイルスを媒介するため、発生初期に登録のある薬剤で防除する。なお、薬剤感受性の低下を避けるため、必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。また、タバココナジラミに対しては防除効果のある薬剤が限られるため、薬剤感受性検定結果等を参考にする。
- (4) 備 考
- ・ トマト黄化葉巻病はタバココナジラミが、トマト黄化病はタバココナジラミ、オンシツコナジラミ両種が媒介する。
 - ・ [防除のポイントNo.22、タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 ねぎ シロイチモジヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- ・ 現在の発生量は多い。（ほ場率：平年比 222%）（+）。
 - ・ 向こう 1 か月の気温は高く（+）、降水量はほぼ平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策
- ・ ほ場をこまめに観察し、本種による被害葉（葉が白く透けて垂れ下がる）を探すなど早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 - ・ 幼虫の齢期が進むと葉に食入して薬剤が効きにくくなるため、若齢のうちに薬剤防除を行う。
- (4) 備 考
- ・ [病害虫発生予察注意報第 4 号](#)を当センターHP に掲載中。

7 野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠
- ・ 現在のフェロモントラップによる誘殺数は平年並（±）。
 - ・ 現在の発生量は、いちご、きゅうり、きくでは多く（+）、ねぎではやや多い（+）。
 - ・ 向こう 1 か月の気温は高く（+）、降水量はほぼ平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策
- ・ 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 - ・ 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。
- (4) 備 考
- ・ [植物防疫ニュース No. 13](#)を当センターHP に掲載中。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	うどんこ病	少	やや少	ねぎ	アザミウマ類	多	多
	アブラムシ類	やや少	平年並	にら	アザミウマ類	やや多	多
きゅうり	褐斑病	平年並	やや多	きく	アザミウマ類	少	やや少
	アブラムシ類	やや多	多		ハダニ類	やや少	平年並
	コナジラミ類	やや多	多	野菜類 ・ 花き類	オオタバコガ	やや多	多
ねぎ	黒斑症状 (黒斑病・葉枯病)	平年並	やや多				

秋の病害虫防除対策

○水稲 越冬害虫

- ・ 再生稲（ひこばえ）は、縞葉枯病（媒介昆虫：ヒメトビウンカ）、黄萎病（媒介昆虫：ツマグロヨコバイ）の媒介虫の増殖源及び病原の獲得源になる他、斑点米の原因となるイネカメムシの一時的な生息場所となるため、早めに丁寧な耕起を行いましょう。

○麦類 種子伝染性病害

- ・ オオムギ斑葉病や小麦なまぐさ黒穂病、ムギ類黒節病等の予防のため、種子消毒を必ず行いましょう。なお、オオムギ斑葉病は遅まきすると発病が多くなるため、適期には種を行いましょう。

○なし 黒星病・炭疽病、りんご 斑点落葉病・褐斑病

- ・ 病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となります。収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬

液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行いましょう。防除の際は周辺へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意しましょう。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- ・冬春トマトでトマトキバガによる被害が確認されています。茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成されます。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となります。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗します。ほ場内をよく観察し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょう。
- ・[令和7（2025）年度植物防疫ニュース No. 3](#)をHPに掲載中です。

農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。特に使用時期（収穫前日数）等に注意して農薬を使用しましょう。
- 化学農薬の抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報（予報期間 10月18日から11月17日 10月16日気象庁発表）

向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高いでしょう。

低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項 目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	2 0	3 0	5 0
降 水 量	3 0	3 0	4 0
日照時間	4 0	4 0	2 0

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX「栃木県農政部（@tochigi_nousei）」、農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧いただけます。



当センターHP